



3学年で英語甲子園

平城高21年度閉校 初出場で劇披露

2021年度いっぱいまで閉校する県立平城高(奈良市)のESS部が、8日に大和郡山市のDMG MORIやまと郡山城ホールで開かれる「英語パフォーマンズ甲子園」に初出場し、英語劇を披露する。来年度は新入生の入学がなく、3学年がそろそろ最後の年に「全員で何かをやりたい」

練習に励む部員たち
(奈良市で)

と出場を決めた。部員たちは「一丸となってグランプリを目指したい」と意気込んでいる。

大会は、環境破壊、貧困などの問題について考え、解決に向けて実践する人材を育てる「持続可能な開発のための教育(ESD)」を理念に始まり2回目。今年は県内外から9校が出場予定で、文化や習慣などについて英語で発信する。

平城高のESS部には16人が所属しており、6月頃に出場を決め、準備を進めてきた。劇のテーマは「日本のおもてなしの心」。架

空の国や日本を旅する人の姿を通し、古くから日本で大切にされてきた「おもてなしの心」を次世代へと引き継ぐ決意を込める。

ALT(外国語指導助手)の体験を基に、部員たちで意見を出し合っ創ったといい、部長の2年中山拓己さん(16)は「英語の発音は大事だけれど、まずは感情を込めることを心掛けた。3年生への感謝の思いも伝えるつもり」と力を込める。

大会は午後1時〜5時半で、入場無料。問い合わせは実行委(0742・207807)。